

廃棄物資源循環学会「災害廃棄物対策・復興タスクチーム」

現場派遣メモ（４月１６日）

文責：鈴木、岡山

1. 活動場所 南三陸町、気仙沼市
2. 活動内容 現地視察（野焼き状況、災害廃棄物撤去状況、津波堆積物の状況・採取）、マニュアル情報収集
3. 現地の天候：１６日（土）日中は曇りのち雨 夕方から晴れ
4. ポケット線量計着用記録：無し
5. 主な活動スケジュール、感想・課題認識及び記録写真

４月１６日（土）

８：１０～ 仙台市出発（岡山、鈴木）

１０：００～ 石巻河南 IC 通過

１０：３０～ 南三陸町到着



南三陸町立志津川中学校（避難所）からの眺望。津波被災ごみの撤去は比較的進んでいる印象。自動車は回収できないのか、散在していた。地盤が沈下しているためか、海面が非常に近い。町外れに仮置き場を確認（一次集積場）。後述する野焼き現場①、堆積物採取地点（南三陸町役場付近②、志津川中学校下の住宅地付近③）のおおよその位置関係は写真上に示す通り。

11:00～ 南三陸町役場近くの松原公園付近で野焼きを確認：38° 67' 43.1" N, 141° 44' 67.0" E



南三陸町で確認した野焼き全景。役場が全壊しており、役場関係の方から状況ヒアリングはできていない。現場では、車両に乗る作業者のみ活動しており、現地ヒアリングもできていない。廃木材を山積みして野焼きしている様子。作業車で金属類を大まかに分別している様子を観察。トラックは山方面から現場に来ており、積載物を搬入している。住宅街の津波被災ごみは7～8割撤去されており、町の廃木材の多くは既にここで野焼きされている可能性がある。当日は、強風のため、雨が降っているにも関わらず、炎をあげて燃えることもあり、夜間など作業者がいない際の延焼可能性は否定できない状況と認識。廃木材を山積みにして順次野焼きしている様子であるが（周囲に燃え殻の山がいくつか存在）、燃烧している山に廃木材を追加して燃烧させるケースもみられる。



周囲には、燃え殻が存在しており、鎮火しているが高温でくすぶっている箇所がある。低温になっている箇所から、燃え殻・焼却灰を2試料採取。



燃え殻近影 1



燃え殻近影 2

南三陸町の津波堆積物調査。5～cm の幅を持った深さで堆積しているように見える。狭い区域内でも深さは大きくばらつく印象。立体物周辺で堆積物の深度が深くなる印象。砂状の堆積物が多い印象。

A : : 38° 67' 73.5" N, 141° 44' 63.5" E



道路中央部分の堆積物は既に取り除かれている。おそらく手付かずの道路脇①と住宅地内の堆積物②をそれぞれ採取。表層を取り除き5～6ヶ所程度から採集して混合したものを試料とした



B : 志津川中学校（避難所）下の住宅地 : 38° 68' 35.0" N, 141° 44' 10.0" E



前述した状況と同様。おそらく手付かずの住宅地内①と道路脇の堆積物②をそれぞれ採取。表層を取り除き5～6ヶ所程度から採集して混合したものを試料とした



C : 本浜町住宅地内 : 38° 67' 54.1" N, 141° 45' 16.8" E



前述した状況と同様。おそらく手付かずの道路脇①と住宅地内の堆積物②をそれぞれ採取。表層を取り除き 5～6ヶ所程度から採集して混合したものを試料とした。



<所感>（岡山）

南三陸町（志津川地区）

特に沿岸部公園の海岸では大規模な野焼きが行われていた。

この日は強風警報が宮城一部で出ているなど、風が強かった。また昼過ぎにスコールがあったが、この雨による鎮火はなく、むしろ火の勢いは強まっていた。

南三陸町は町役場が全壊しているなど、行政機能は極めて弱体化していると考えられる。それを鑑みて、この野焼きは行政判断ではなく、業者判断であると推測される。風に火が舞って延焼・火事が起こる可能性も否めない。

→南三陸町ではとにかくこの野焼きはやめる方向で検討してもらいたい。

→ただし海岸付近は先に片付け、仮置き場に使用することはあり得る。一帯の津波壊滅地域はある程度は自衛隊あるいは軍による集積がみられるが、いずれも便宜的にどこしただけであり、早急に一部被災地域を仮置き場として分別して集積する必要がある。

→仙台市同様、オンサイト集積が考えられる。ただし中間処理は別の場所で行うほうが良いかもしれない。

住民合意が得られれば、仙台市方式が有効と思われる。あわせてがれき撤去した地域から土を入れて造成し、仮設住宅建設等進めるといった志津川地区の暫定都市計画を早急に策定することを提案したい。

15:20～ 気仙沼市魚浜町到着

海水臭や魚臭といった臭いに加えて、震災時に火災が起きていることもありオイル臭がする。ここも地盤沈下の影響か、海面が非常に近い。雨の影響もあるかと思うが、津波で冠水している箇所がいくつもあり、深さもかなりある→満潮時の海水の影響もあるかもしれない。



気仙沼市の津波堆積物調査。こちら先ほどとほぼ同様、5～cmの幅を持った深さで堆積しているように見える。狭い区域内でも深さは大きくばらつく印象→立体物周辺で堆積物の深度が深くなる、など。南三陸町と比較して、粒度が細かい。採取する際、内側が黒色を呈している箇所がみられる。

A：気仙沼市立鹿折小学校周辺：38° 92' 21.3" N, 141° 58' 14.0" E





前述した状況と同様。おそらく手付かずの道路脇をそれぞれ2点採取。



B：気仙沼市中みなと町東浜街道周辺：38° 55′ 02.8″ N, 141° 34′ 52.9″ E



震災時に火災が発生した現場で、現時点でもオイル臭が非常に強い。火災した建屋が非常に多く（浜町・本浜町地帯）、現場にあった堆積物交じりの燃え殻を、火災建屋区域内から2試料採取。



16:45～ 展望台から気仙沼市を視察

市内は行方不明者を捜査している箇所もあり、津波被災ごみなどを撤去・移動・集積している状況は確認できず。野焼き事例も、気仙沼では確認していない。

20:00 仙台市到着

<所感> (岡山)

気仙沼市

気仙沼市は南三陸町と違って、まだ立っている被災家屋や店舗が多い。だからこそ、今後の解体廃棄物処理が大きな課題と認識。対岸では津波全倒壊地域となる。両地域は別々に対応する必要がある。津波地域は、南三陸町同様、一部に分別して集積し、適宜運び出す。

場所が確保できれば破砕、焼却をオンサイトで行うことも考えられるが、事業者の多い地域なのでその面積確保は難しいかもしれない。

一方、港付近は店舗等が密集して、いずれも全・半壊している。実際には解体が必要であるが、すべて解体した場合集積する場所は確保できないと考えられるため、1棟解体したらその場で運び出す必要があり、順次解体していくことが検討される。

集積場が必要な場合は、山側に（場合によっては一関市にでも）集積場を確保して、そこに解体ごみを一次集積するしかないと思受けられる。

港湾は、一刻も早い漁港の復旧と汽船サービスの復旧が望まれることから、港湾地区に集積することは無理であるように思われる。

南三陸町および気仙沼市両方に言えることだが、特に県の行政支援および指導が必要。

解体ごみが多く、今後は注意して解体を行い、かつ山間部に集積所を確保する必要があると認識。そのためには県の支援が必要と思われる。